

H22年度

県庁舎基本構想ワーキンググループ 提言

# 長崎県庁 新庁舎のコンセプトについて

～理想の働き方を実現するオフィスをめざして～



長崎県 県庁舎基本構想ワーキンググループ

×

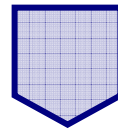
京都工芸繊維大学大学院 仲・城戸崎研究室

H23年3月

# 01 はじめに

平成21年度:「知」を創造するオフィスづくり

- ・新庁舎建設を機会に「働き方」から見直す
- ・職員の知的生産性を高め、県民との協働(共創)を実現するもの



H22年度:理想の働き方を実現するオフィスをめざして

- ・理想の働き方とはどのようなものか
- ・理想の働き方を実現するオフィスは  
どのようなものか

## 02 ワークプレイスの整備

### オフィスとは

- ・事業目的を遂行するための場
- ・人が行うべき知的労働を支援する場

<新世代オフィス研究センター(NEO)「経営とオフィスの新しいかたち」より>

introduction

はじめに

work place

ワークプレイスの整備

N model

理想の長崎県庁(Nモデル)

N action&idea

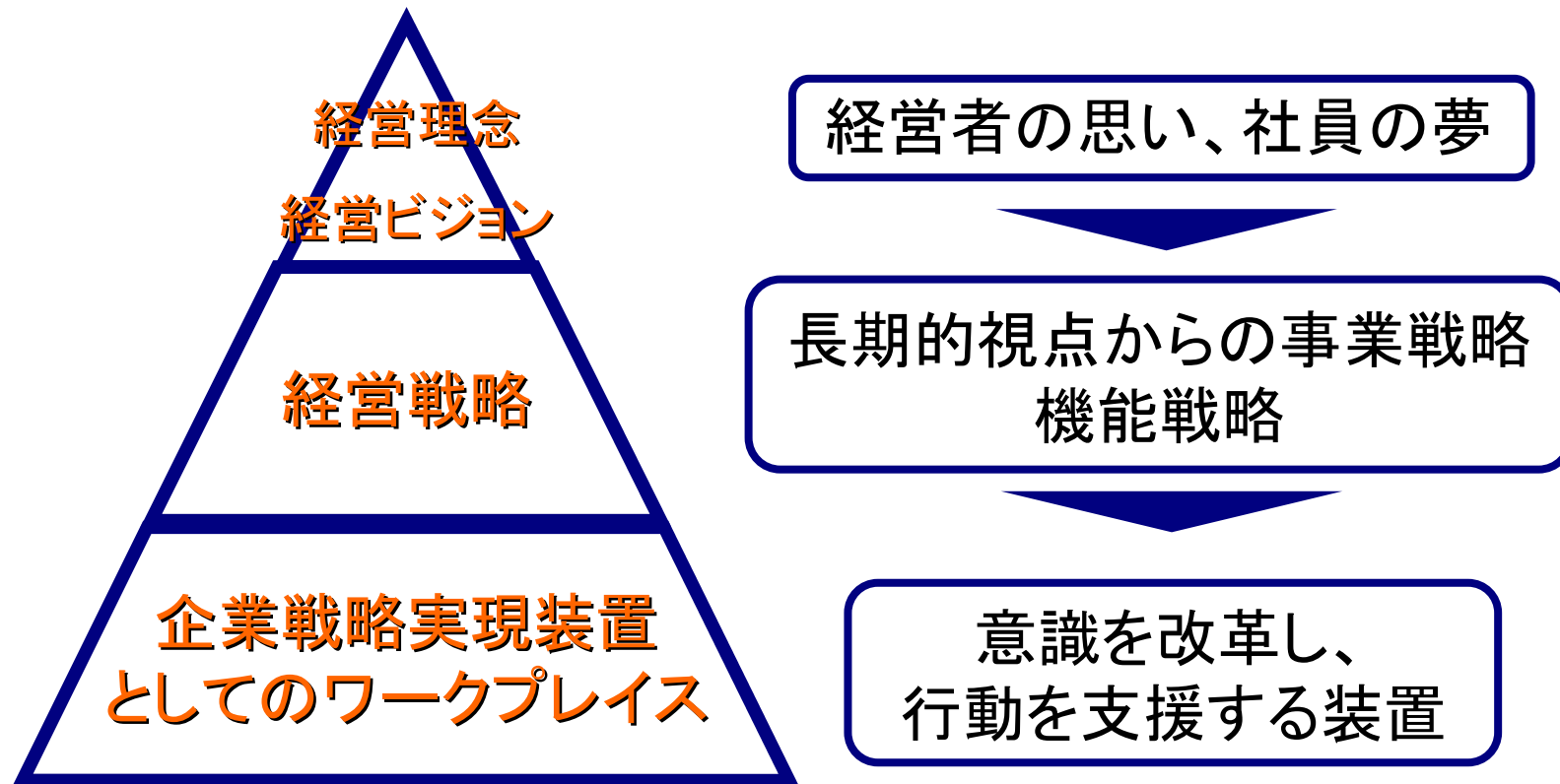
N行動とアイデア

to the end

さいごに

長崎県庁WG&仲研究室

# クリエイティブオフィスをつくる



<新世代オフィス研究センター(NEO)「経営とオフィスの新しいかたち」より>

# クリエイティブオフィスをつくる

## 【あるべき姿】

- ・経営理念や経営ビジョン
- ・経営戦略



ギャップ



【現状】(現状の延長)

## 企業戦略実現装置としての ワークプレイス

【あるべき姿】と【現状】のGAPを埋めるために  
意識・行動・文化の改革が必要

1. 経営の意思、課題を聞く
2. 【あるべき姿】を描く  
ワークスタイルに翻訳する
3. 【現状】とのギャップを確認する
4. 【改革】の具体的な内容と  
ステップを計画する
5. RealとVirtualをデザインする
6. 具体的なプランに落とす

<新世代オフィス研究センター(NEO)「経営とオフィスの新しいかたち」より>

# 民間企業の事例① ファーストリテイリング

## 経営理念、経営ビジョン

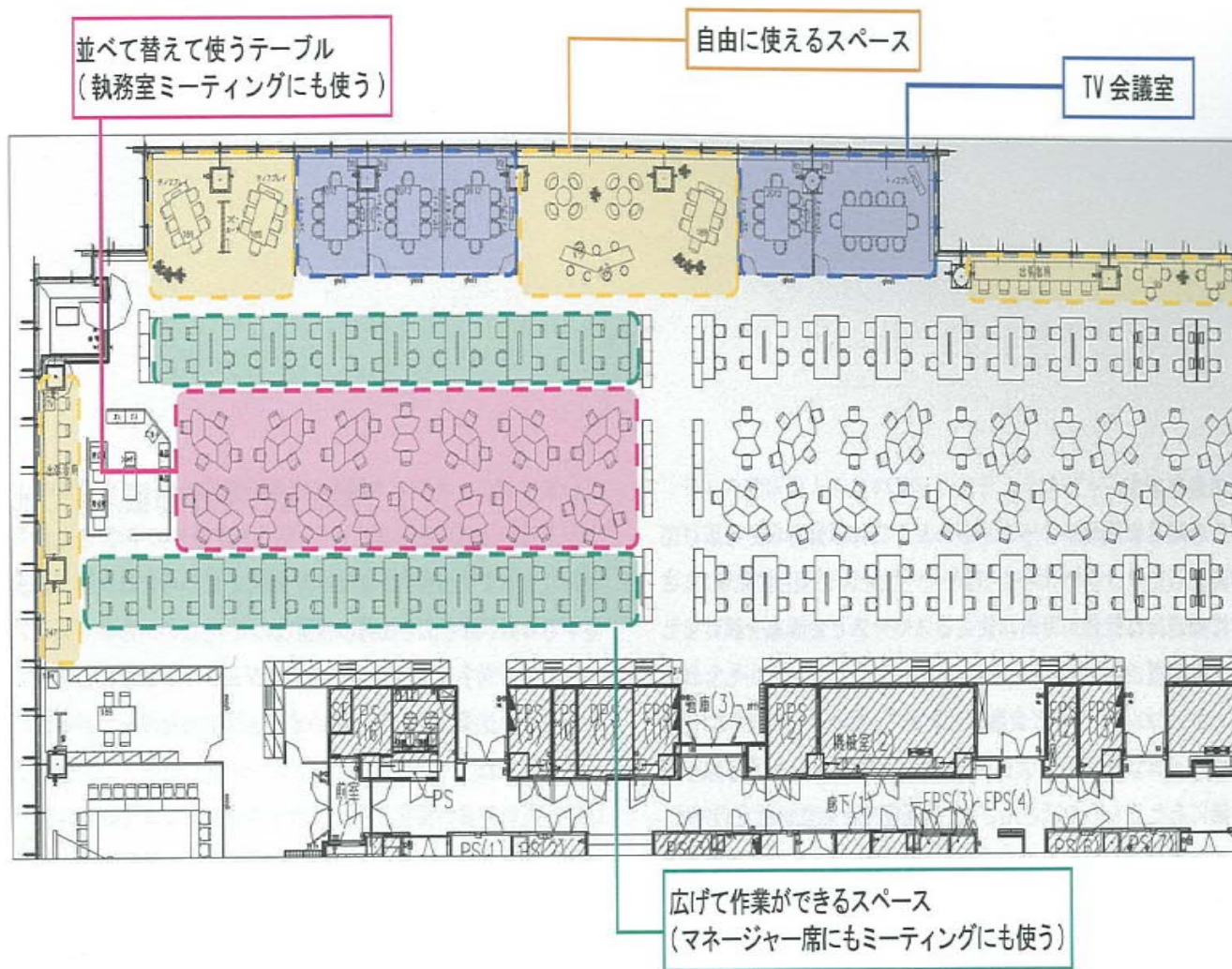
「グローバル化」と「グループ化」の実現

## オフィスコンセプト

- ・マネジメント層を強化するオフィス
- ・業務品質を更に向上するオフィス  
(スピードをあげる)



# ファーストリテイリングのオフィスレイアウト



<THE BEST of NEW OFFICESより>

# ファーストリテイリングのオフィス



<THE BEST of NEW OFFICESより>

introduction  
はじめに

work place  
ワークプレイスの整備

N model  
理想の長崎県庁(Nモデル)

N action&idea  
N行動とアイデア

to the end  
さいごに

長崎県庁WG&仲研究室



# ファーストリテイリングの食堂



<THE BEST of NEW OFFICESより>

introduction  
はじめに

work place  
ワークプレイスの整備

N model  
理想の長崎県庁(Nモデル)

N action&idea  
N行動とアイデア

to the end  
さいごに

長崎県庁WG&仲研究室

# ファーストリテイリングの階段とテレビ会議室



<THE BEST of NEW OFFICESより>

introduction  
はじめに

work place  
ワークプレイスの整備

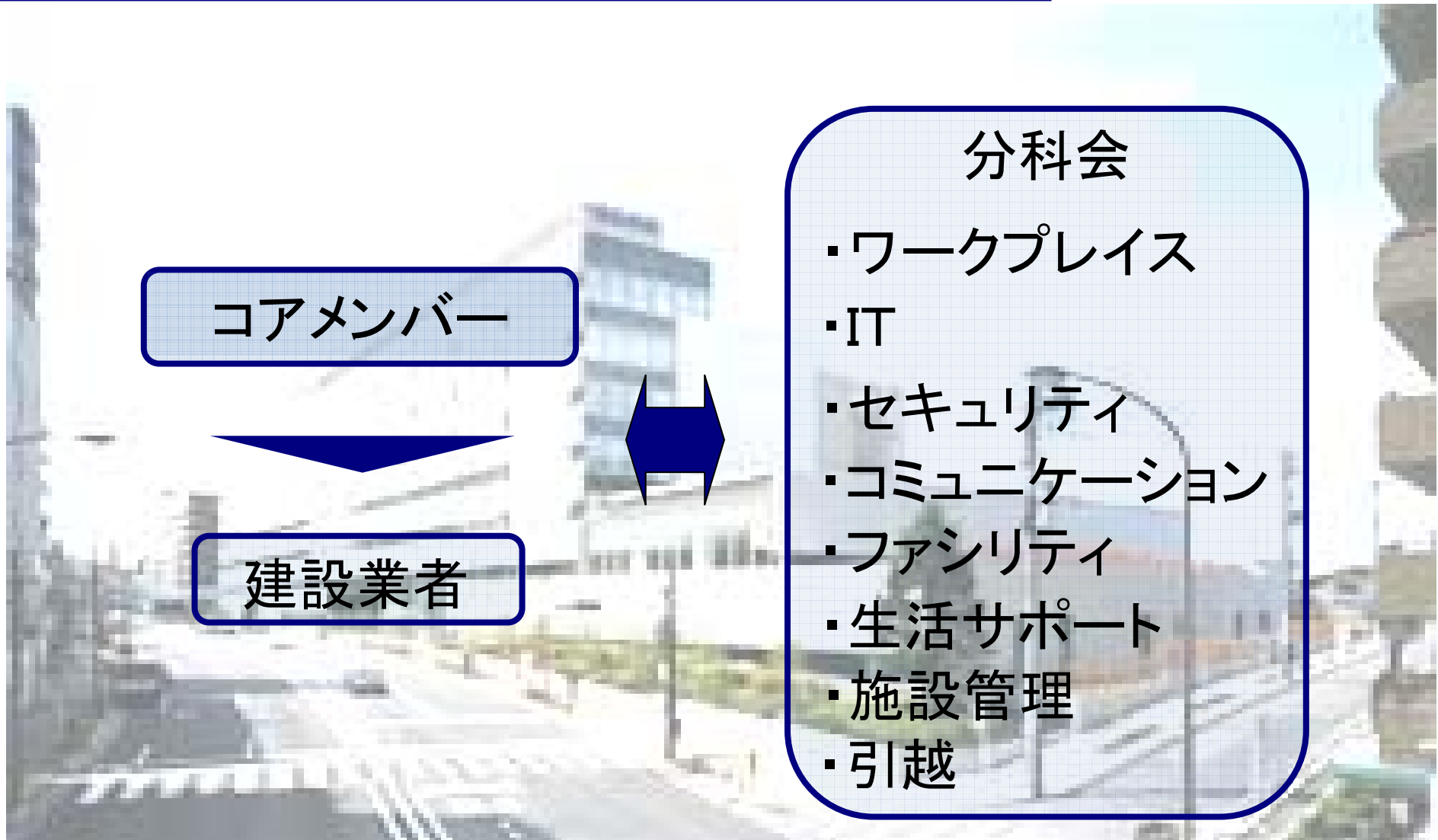
N model  
理想の長崎県庁(Nモデル)

N action&idea  
N行動とアイデア

to the end  
さいごに

長崎県庁WG&仲研究室

## 民間企業の事例② アルプス電気





# アルプス電気のオフィスコンセプト

## ①働き方の改革

- ・コミュニケーションの促進  
(集約化、階段の有効利用、  
打ち合わせスペースの新設、テレビ会議システムの改善等)
- ・環境変化への対応  
(フリーアドレスやペーパーレスの導入等)
- ・ワーカーズホスピタリティ  
(オフィスコンシェルジュの配置等)

## ②安全性の向上

- ・社員の安全確保
- ・セキュリティ向上

## ③環境・地域共生

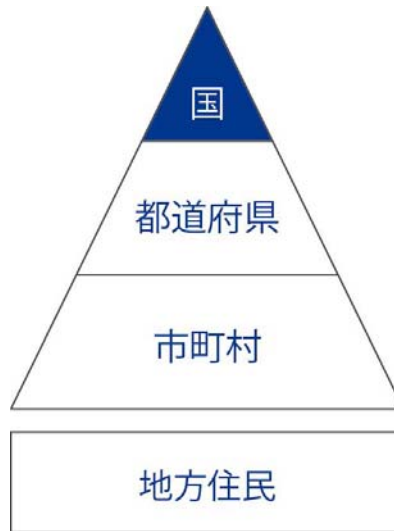
- ・環境との共生
- ・地域、近隣との共栄



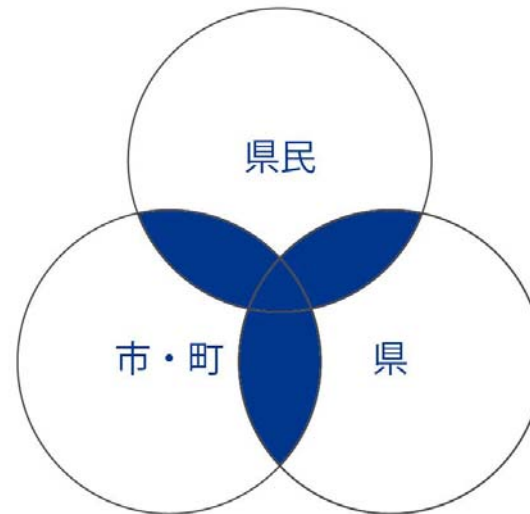
# 03 理想の長崎県庁とは

## 社会背景

国のカタチはこれまでの中央主権型から地域主権型へ変わりつつあります。これからの長崎県はみんなで知恵をしぼり、更に魅力を高めていかなければなりません。



これまでの中央主権型



これからの長崎県の理想

## 理念(知事の所信表明演説 抜粋)

- ・行政の力だけでなく、県民の参画とともに  
諸課題に取り組む
- ・「こぎだせ！長崎」のもと、  
情報共有しながら力を合わせる
- ・職員の経験、知識、人脈全てを動員し、  
県の諸課題の解決に総力を挙げる
- ・垣根を低くしてルーチンワークを削減
- ・ワイワイガヤガヤと議論に時間を割く

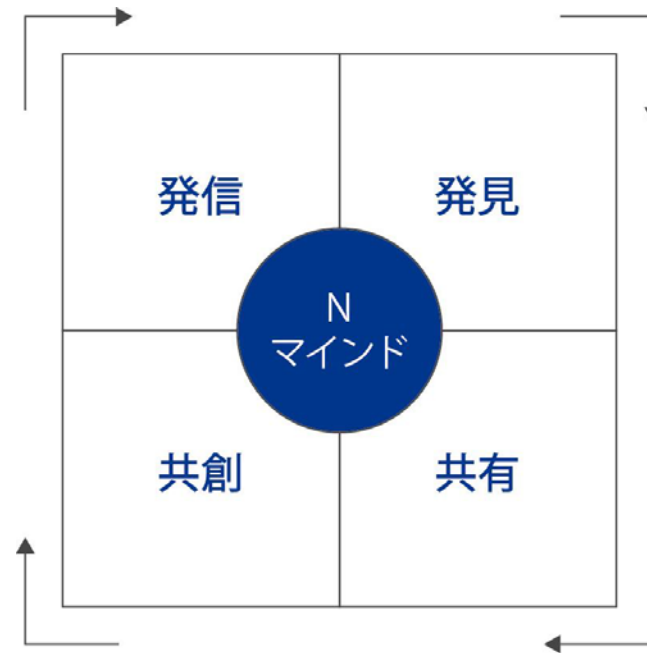
# 理想の働き方とは

理想の働き方とはどのようなものか、これまでの仕事の成功要因・失敗要因を洗い出すと以下のキーワードが見えてきました。

成功要因	失敗要因	
<ul style="list-style-type: none"> <li>直接出向いて話をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現場へ足を運ばない</li> <li>庁内や庁外からアイデアを聴く場の不足</li> </ul>	①発見
<ul style="list-style-type: none"> <li>目的を共有する</li> <li>情報を共有する</li> <li>考えや悩みを共有する</li> <li>コミュニケーション活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的の共有不足</li> <li>情報の共有不足</li> <li>意識の共有不足</li> </ul>	②共有
<ul style="list-style-type: none"> <li>全体像を考えた上で個人の役割を認識する</li> <li>みんなで考える</li> <li>リーダーシップの発揮</li> <li>過程を公表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体像の把握不足</li> <li>みんなで考えることに不慣れ</li> <li>リーダーシップの欠如</li> </ul>	③共創
<ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信方法を工夫する</li> <li>情報を繰り返し発信する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信方法が一方的</li> <li>発信するタイミングが遅い</li> <li>情報を発信していない</li> </ul>	④発信
<ul style="list-style-type: none"> <li>モチベーションの向上</li> <li>職務意識のフラット化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>非効率・非効果的な決まり</li> <li>過剰な担当意識</li> <li>限られた裁量権</li> </ul>	Nマインド (職員の意識)

# 理想の働き方のプロセス

発見・共有・共創・発信の4つを一連のプロセスとして行います。Nマインドはプロセスの原動力となります。



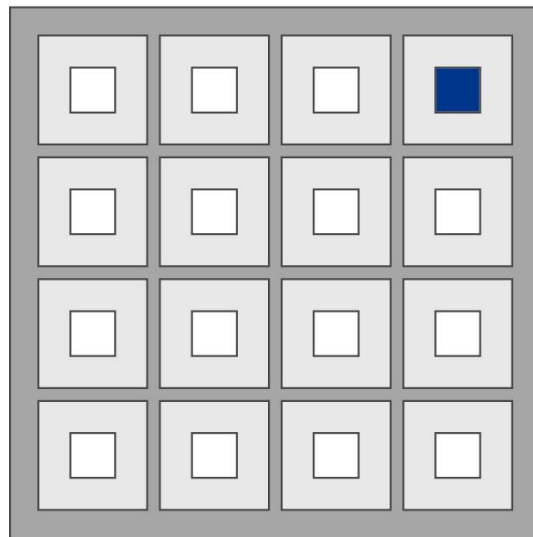
長崎モデル  
(Nモデル)



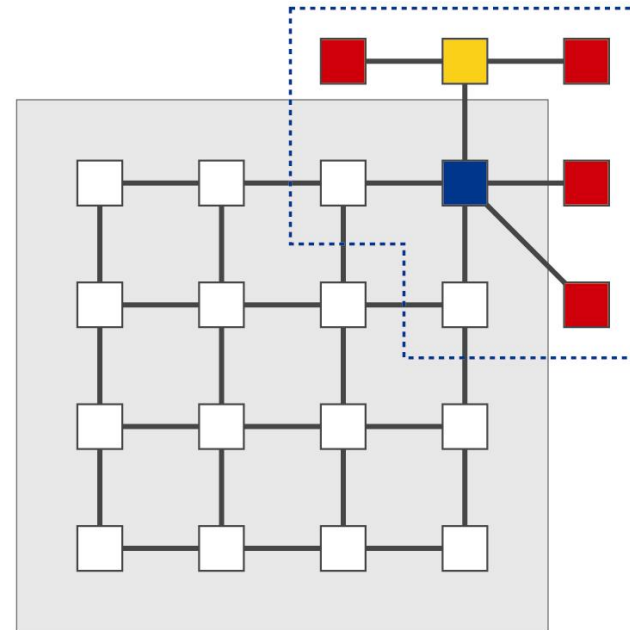
# Nモデルをさらに生かすには

①『組織横断型』で業務の質を向上させます。

□ 各課    ■ 市・町    ■ 県民



これまでの体制

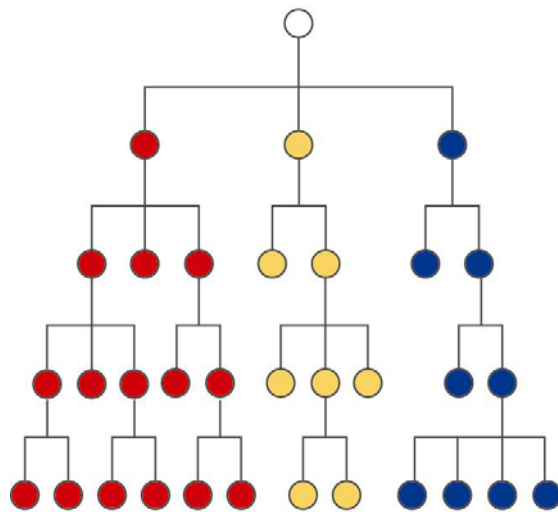


組織横断型

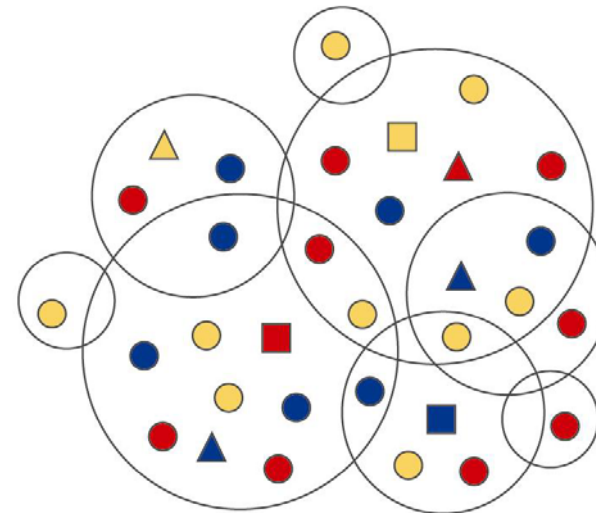
# Nモデルをさらに生かすには

②『プロジェクト型』で、組織を柔軟に変化させることで多様なニーズに対応し、新たな魅力をつくっていきます。

○ 各課    △ 市・町    □ 県民








これまで



プロジェクト型

# N行動

 <b>Nマインド</b> 無駄な決まりや制度の見直しにより職員一人ひとりの意識改革を行う。	0-1. 県民目線になる
	0-2. モチベーションをあげる
	0-3. 積極的に取り組む
 <b>発見</b> 想いやアイデア、問題点、不満等を聴く。必要に応じて直接聴き、まだ課題として具現化されていない「現状」を発見する。	1-1. 県民を呼び込む
	1-2. 街に出してみる
	1-3. 県民の声を集める
	1-4. 庁内を歩く
	1-5. モードを変えて考えてみる
	1-6. 出会う
 <b>共有</b> ①で発見した現状を共有し、課題として認識する。	2-1. こまめに報告・連絡する
	2-2. 悩みを打ちあげる
	2-3. 見える化する
	2-4. データを共有する
	2-5. 気軽に話してみる
 <b>共創</b> 課題の全体像と個人の役割を理解し、県庁内外問わず知恵を出し合う。	3-1. ワークショップをする
	3-2. 議論を重ねる
	3-3. どこでも繋がる
	3-4. PMする
	3-5. メンバーとすぐ話せる
	3-6. プロジェクト化を支援する
 <b>発信</b> 相手や内容、時期、方法を工夫して共創過程や、結果を発信する。	4-1. リアルタイムで届ける
	4-2. 興味を持ってもらう
	4-3. 県民も参加する

# 発見



## デジタル目安箱

意見をPCなどで打ち込み、  
内容をモニターで公開する



## 県民も使える会議室

会議室を開放してイベント等を行  
い、県民と意見交換する



## とびこむ職員

県民のナマの声を聴くため積極的に  
職員が地元へ足を運ぶ

introduction  
はじめに

work place  
ワークプレイスの整備

N model  
理想の長崎県庁(Nモデル)

N action&idea  
N行動とアイデア

to the end  
さいごに

長崎県庁WG&仲研究室



# 発見



ワンフロア

他課の様子をゆるやかに知り、情報共有するとともに、新たなアイデアが生まれるきっかけを得る



市町職員たまり場

市町職員が来庁した時に利用できる場を提供し、県職員もそこを訪れることで、交流を誘発する



リフレッシュスペース

働く環境を変え、リフレッシュし、新たな発想を得る

# 共有



プチミーティング

頻繁に短時間のミーティングを開き、その日の予定や作業の進捗状況を共有する



マグネットスペース

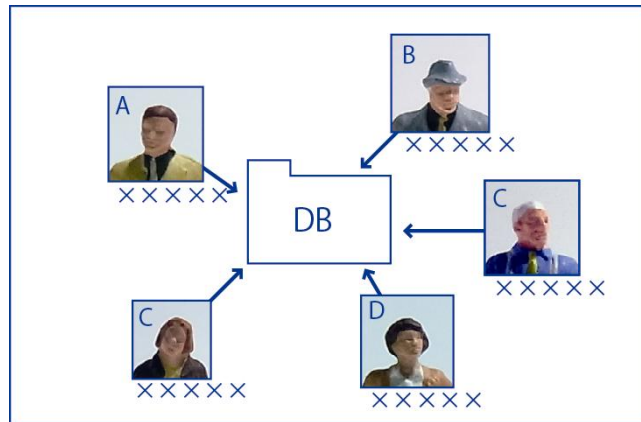
コピー機などを共有して使うものを一箇所に集め、関わりのなかった人との偶発的な出会いやコミュニケーションを促進する



助言ボード

ボードに課題等を掲示し、意見やアイデアを貼り付けてもらうことで、多数の意見をもらう

# 共有



職員データベース

各職員の職歴や参加プロジェクトなどのデータを蓄積・管理し、簡単に検索できるシステム



図書スペース

仕事に関連する本や雑誌を一箇所に集約し、いつでも見ることができる。閲覧だけでなく、集中して仕事をしたいときにも利用できる

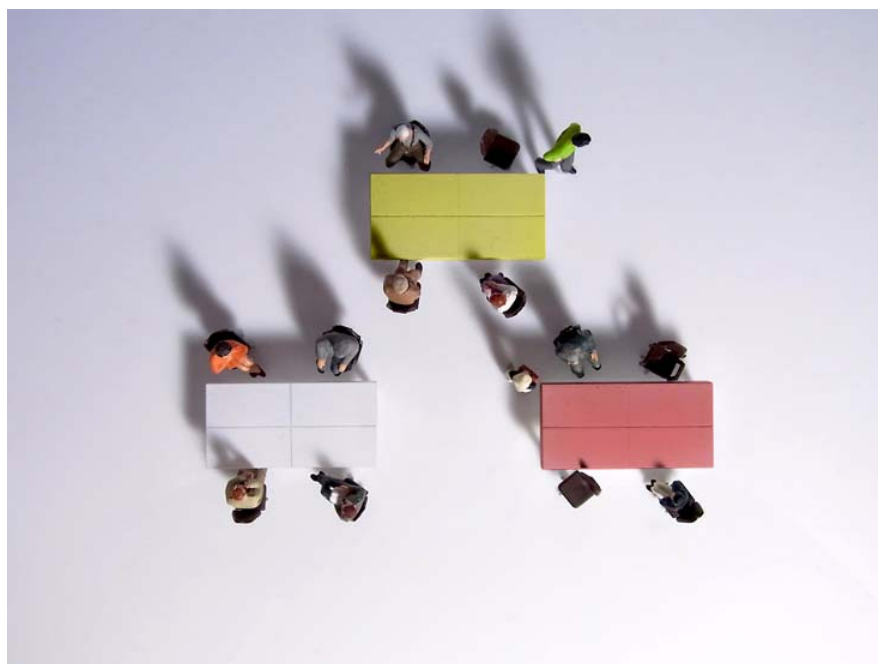


ファイリングシステム

書類を一元管理し、検索しやすいように規則的に並べることで、いつでもすぐにデータを見ることができる



# 共創



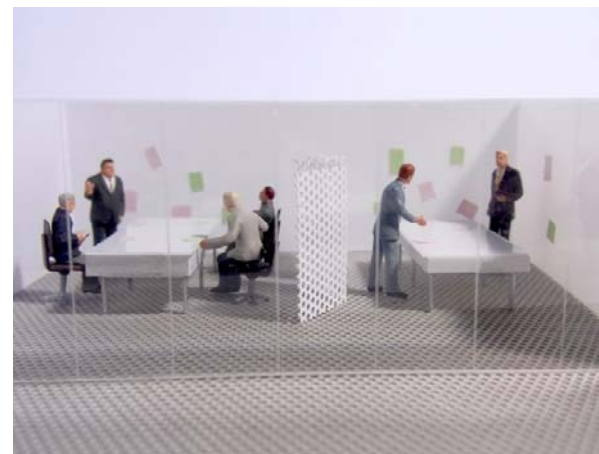
## チームアドレス

チーム(部・課・係)ごとにエリアを定め、業務内容に応じて、エリア内で自由に席を選ぶことができる



## ホワイトボード

庁内のあらゆるところにホワイトボードを設置することで、どこでもすぐに議論ができる



## 共創会議室

外から活動の様子が分かるガラス張りの会議室、研修施設も兼ねることができる



# 共創

## テレビ会議室

遠隔地にいる人とも顔を合わせてリアルタイムに議論することができる



## 進捗管理ボード

ミーティングに参加できなかった人にも状況が分かるように、プロジェクトの進捗を管理するボードを設置する

# 共創

## 柔軟な組織スタイル

プロジェクトをひとつのチームとして、みんなで取り組んでいくスタイル。プロジェクトに応じ、リーダーを決めることで責任を持つ



## プロジェクト支援コンシェルジュ

プロジェクトの全体的な進捗を背後から確認しながら、それに必要と思われる情報や場所、人材を提供する

introduction  
はじめに

work place  
ワークプレイスの整備

N model  
理想の長崎県庁(Nモデル)

N action&idea  
N行動とアイデア

to the end  
さいごに

長崎県庁WG&仲研究室

# 発信



## パブリックビューイング

庁内外の様々な場所に設置されている大画面でプロジェクトの成果を流す

## 県庁マンガ

県の制度や施策の情報を盛り込んだマンガを用いて、県政を分かりやすく伝える



## 県庁見学

社会科見学等で県庁に来てもらい、県政に触れるきっかけをつくる



introduction  
はじめに

work place  
ワークプレイスの整備

N model  
理想の長崎県庁(Nモデル)

N action&idea  
N行動とアイデア

to the end  
さいごに

長崎県庁WG&仲研究室



# 発信

## 県民とふれあう場

イベント等を県庁で行い、県民と直接ふれあうことで、双方の思いを共有でき、県政にも興味をもってもらう



## 県民と広報誌をつくる

広報誌をつくる段階から、県民に参加してもらおう。県民がどんな情報を知りたいのか知ることができ、より県民が読みやすい広報誌をつくることできる



# Nマインド



## 地区担当制

通常業務と併せて地区担当を持ち、担当地区について横断的に考える



## 場所を選択する

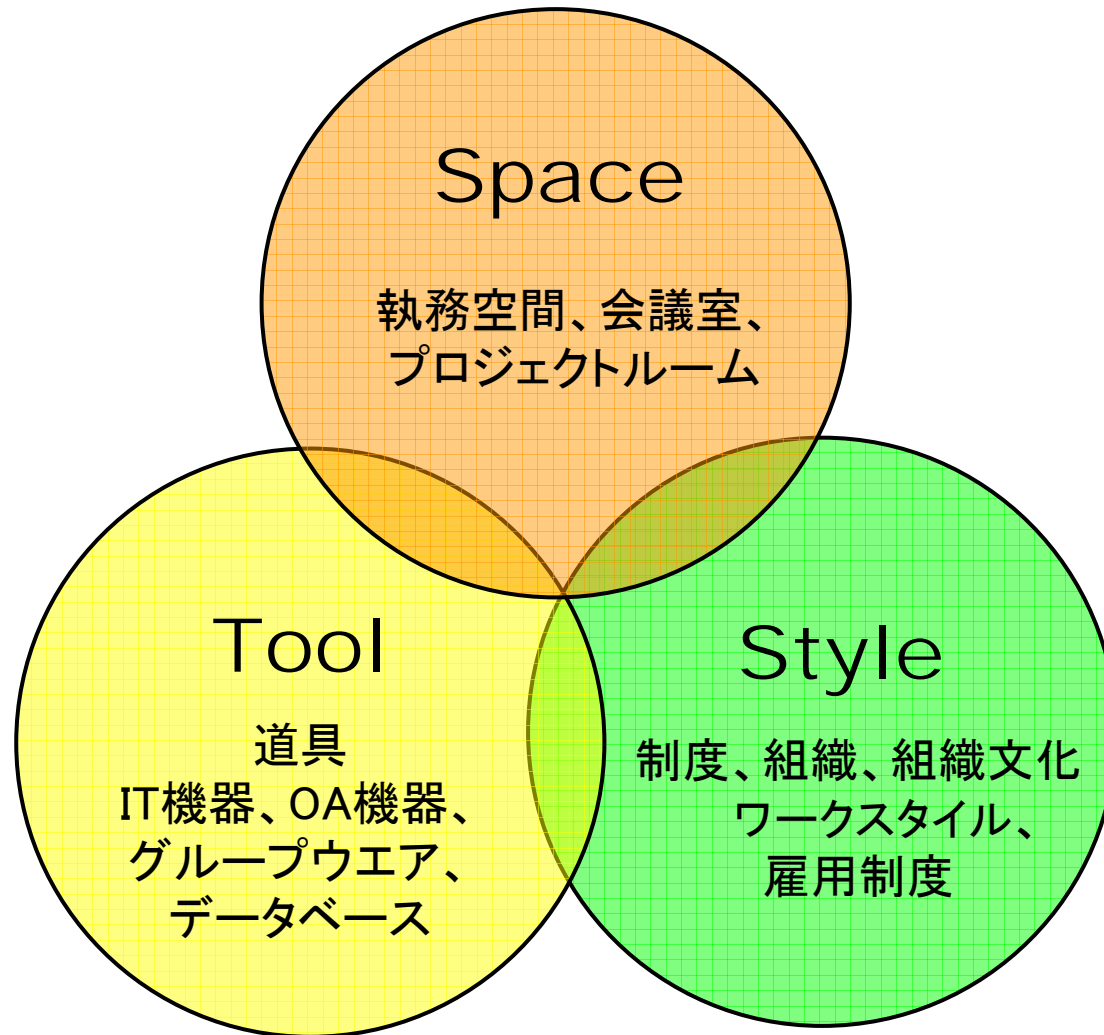
仕事の特性に応じて、リラックスできる場所や、庁外の現場に出て行くなど、職員のフットワークを軽くすることを支援する仕組み



## MVP長崎

プロジェクト業務などに対し、成果をあげた職員や県民を表彰することでモチベーションを高める

# 05 さいごに



## 県庁舎基本構想WG

川頭 友喜 (広報広聴課)  
佐藤 要 (総務文書課)  
大内田 基教 (県庁舎基本構想策定室)  
平山 隆一 (県庁舎基本構想策定室)  
川原 雅彦 (新行政推進室)  
川上 新太郎 (管財課)  
松本 幸久 (情報政策課)  
岡田 舞 (地域政策課)  
山下 公誉 (市町振興課)  
岩本 萌 (国体総務課)  
宮生 綾子 (県民安全課)  
橋本 麻美 (環境政策課)  
福島 浩史 (福祉保健課)  
直塚 健 (産業政策課)  
松尾 由美 (水産振興課)  
松尾 和明 (漁港漁場課)  
金崎 浩 (農政課)  
山川 秀和 (建設企画課)

計: 18名

## 仲・城戸崎研究室(京都工芸繊維大学大学院)

仲 隆介 (県庁舎基本構想アドバイザー)  
五十嵐 貴子(リーダー)  
立岩 宏彰(サブリーダー:修士1年)  
兼田 沙知(サブリーダー:修士1年)  
本多 宏明(修士2年)  
榎 真梨子(修士1年)  
松本 直人(修士1年)  
谷口 美虎人(修士1年)  
河田 耕之介(修士1年)  
岡部 太郎(学部4年)  
竹下 祥恩(学部4年)  
西川 忠広(学部4年)  
渡辺 修司(学部4年)  
助友 文香(学部4年)  
八木 愁平(学部3年)  
中野 健太(学部3年)

計: 16名